

4月16日13時より「平成20年度 教育人間科学部教員 初任者研修会」が開催されました。貫井学長、川村教育人間科学部長の挨拶の後、人事課長より法人職員の服務と倫理、研究協力課長より外部資金・科学研究費、総務・広報課長補佐より環境保全活動などについての説明がなされました。出席された先生方は7人です。写真左側からの順で、参加されたコメントを掲載いたします。

社会科教育講座 石塚 迅

昨年9月に山梨大学に赴任し半年がたちました。長いようで短いような半年でした。新任ということもあり、すべてに右往左往し毎週の授業準備に追い立てられ、いま一つ研究・教育両面において地に足がつかない状態でしたが、そうした中で、この初任者研修会に参加の機会を与えられ、各方面から貴重なお話をいただいたこと、および同じ新任の先生方と意見交換ができたことは非常に有意義でした。今後、山梨大学の一員として、研究・教育・社会貢献の各方面に一層努力していかなくてはならない、とりわけ、外部資金の取得に積極的にチャレンジしていかねばならないと強く感じました。

美術教育講座 新野 貴則

山梨大学に昨年の9月に赴任して半年以上が経過し、温かい雰囲気に見守られ、ようやく大学の仕事にも慣れつつあります。これまでの職場では、研究やそれにかかわる事務の仕事のみをしていたため、当初は授業をすることへの戸惑いもありました。が、多くの先輩方にアドバイスをいただき、ようやく授業をすることの難しさの中にも楽しさを見出すことができるようになってきました。

また、これまで研究の中で批判してきた授業をあらうことか私自身が実践してしまっていた現実に驚き、大いに反省した半年でもありました。今後は私自身が一人の教師として研究を実践に生かしつつ、真摯な態度で学び研究しなければならないと痛感しております。

ソフトサイエンス講座 数理情報コース 厚芝 幸子

私を含めて初任者のために研修会を開催してくださいましたFD委員会の先生方、また分かりやすくご教授くださいました方々にこの場を借りて心よりお礼申し上げます。多岐にわたる、身につけておくべき知識をコンパクトにまとめて教授くださいましたこの研修は、4月1日の着任以来まだ右往左往している私にとって大変有意義なものでした。厳しい大学財政状況での取り組み・方策について、特に科研費に関する話については大変参考になり、今後の外部資金獲得の重要性を一層強く認識するようになりました。また、諸先生方と協力しつつ、微力ながらも大学の教育・研究活動に貢献できればと心を新たにすることができました。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

教育実践総合センター 谷口 明子

このたび初任者研修において、山梨大学教育職員として必要な基本的知識を細やかに授けていただきましたことを大変有難く思っております。お忙しい中、新任の私どものために本研修をご計画くださったFD委員会の先生方、ならびにご教授のお時間を割いてくださいました皆様に厚く御礼申し上げます。ハラスメントの問題をはじめとする服務規程のお話には、教育機関に勤務する者としての職業倫理を改めて認識し、襟を正す思いでございました。社会人としての基本ルールを遵守することはもちろんのこと、研究と教育を両輪として両活動に鋭意取り組むことが、職を全うすることとして重要であることを実感する貴重な機会を頂戴したと思っております。

教育実践総合センター 角田 修

この度、教育実践総合センターにお世話になることになりました角田です。宜しくお願ひいたします。今から14年前も1年間という短い間でしたが、本学の「心理学教室」でお世話になり、自己の教育実践を振り返るよい機会を与えていただきました。先生方に御指導をいただくなかで、確かな理論に裏打ちされた教育実践の大切さを改めて学ばせていただきました。

今度は、学生の皆さんとともに、教育のあり方について考えたり、少しでも教師としての実践的な力量形成が図れるような学びができるよう努力していきたいと思ひます。ぜひ、皆様方の御指導を宜しくお願ひいたします。

留学生センター 仲本 康一郎

わたしのような大学初心者にとって（前年度までは非常勤のかけもちでした）、今回の研修は大学の掲げる目標や指針を知る上で大変有意義な機会となりました。時間を割いて場を設けてくださった諸先生ならびに事務の皆様にご心より感謝申し上げます。大学の教育改善を目指すFDの説明をはじめ、大学財政における科研費の位置づけなどは特に参考になりました。山梨の地に来てまだ一月ですが、この素晴らしい環境のなかで周囲の人々と協力しつつ、大学の教育・研究の向上に少しでも貢献できればと考えています。今後とも宜しくご指導お願ひ申し上げます。

ソフトサイエンス講座 環境科学コース 松本 潔

4月1日付でソフトサイエンス講座に着任いたしました、松本と申します。自然豊かな甲府の地で研究・教育に携わることになり、大変嬉しく感じています。初出勤の朝に見た武田通りの満開の桜並木の光景が、2ヶ月経った今でも強く印象に残っています。美しい自然と静かな街並みに囲まれたキャンパスで、気持ちも新たに精進したいと思います。仕事帰りに歌舞伎町に飲みに行くような日々を送ってきた私にとって、「こんな静かな街でちゃんと生活できるのだろうか？」という不安も感じながらの新生活のスタートですが、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

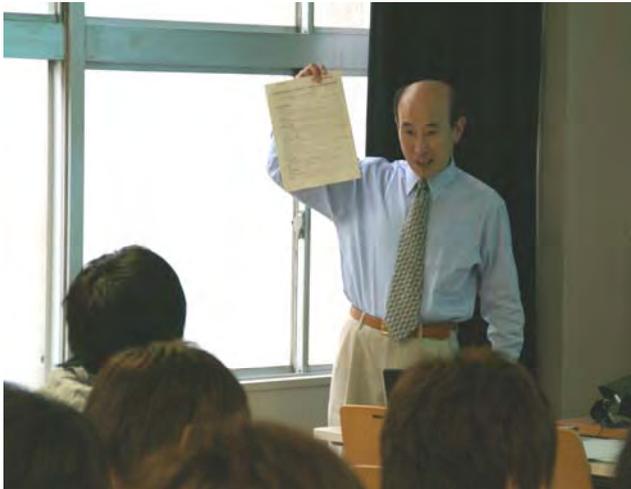


※ たいへん有意義な会を持つことができました。ご出席くださった皆様方に心より御礼申し上げます。

学部FD委員会

【授業者の思い】 学生の疑問や考えを取り入れた授業構成：

松森 靖夫（理科教育講座）



かつて、私の担当する授業では、学生の消極的な姿勢（私語・居眠り・飲食行為・遅刻・欠席・中途退出など）が見受けられ、学生の積極的な取り組みを喚起する授業方策を求め、常々頭を悩ませておりました。

そこで、ここ十年ほど、従来までのトップダウン的な教員主導型の授業構成を見直して、学生の視点からのボトムアップ的な授業構成を心がけて参りました。具体的には、授業前の学生に既存の疑問や考えを盛り込んだ学生主体の授業構成です。

実際、『中等理科教育法』の履修学生達は白紙の状態（tabula rasa）で授業に臨むのではなく、中学校当

時に自らが受けた理科授業に関する体験や鮮明な記憶、中等理科に関する実に多様な疑問や考え等を携えて臨んでいます。例えば、「今と昔の理科教育（授業）の違いについて知りたい」「理科を学ぶ理由、最終的に何が身につけばいいのか」「理科嫌いの根本や起きた理由、解決策は？」「実験の時に、トラブルがあった時の対処法は？」などが挙げられます。それらを授業者の方で整理して、毎回の授業で取り上げております。

最近になり、授業後に書いてもらう学生の感想の中に「毎回思うことだけど、“教える側に立つ者の予備軍”として、細かく質問に答えてくれるのは、ものすごく勉強になります！」といった嬉しい声も聞かれるようになりました。

末尾ながら、本授業は木曜1限であり、かつ当日の悪天候にも関わらず、多数の先生方や学生の皆さんにお越し頂き本当に感謝しています。微力ながら、今後も、さらに学生主体の効果的な授業構成を志向していきたいと考えています。（了）



【授業参加者の感想】 教員・学生アンケートより（参考になった点等、一部を抜粋）

- ◎ 学生に自分で考えさせ、参加させようとするところに工夫があった。
- ◎ 学生がすぐに興味を持って取り組める資料を利用している点とその資料を用いたグループでの討論。
- ◎ グループの構成の仕方。特に「その場でのグルーピング」による討論の方法は参考になった。
- ◎ 先生の講義そのものが、学生たちがやがて授業をするときのモデルとなっていて大変良いと感じた。
- ◎ パワーポイントによる提示、配布資料を用いた演習、その後の討議等、1つの授業に複合的に多様な要素が盛り込まれているところ。
- ◎ 先生が机間を巡り、あちこちで学生と対話を行い、細かな指示、暗示、受け答えを行い、学生の思考を促していた点。
- ◎ 毎回の授業で感想文を書かせて、自分の授業をフィードバックすること。
- ◎ 授業のほとんどすべて。無理のない授業計画で、方法的にも模倣できる。授業中に指摘された「短所」を克服するのはそれほど難しくないだろう。



第2回FD授業公開：「生活設計論」―

7月10日(木) 1時限 LC-16

【授業者の思い】 生活を見つめる学生参加型授業：

志村 結美 (家政教育講座)

全学共通科目「生活設計論」は、自らの人生や生活を形成する基礎となる大学生の時期に、主体的な生活設計・ライフデザインについて認識を深めることを目的としている。そこで、本科目はワークショップ等、学生参加型の授業を多く取り入れ、学生自らが主体的な生活設計の重要性に気づくこと、また、毎回知らないメンバーとのワークショップを通して、コミュニケーション能力を育成すること等をねらいとした。

今回の公開授業では、「消費生活を考える」というテーマで商品の販売者、消費者の立場の両者を体感し、現代の消費生活の課題を認識するとともに、自らの消費生活を振り返り、問題点等を明らかにすることを目的とし、「説得納得ゲーム：販売編」を取り入れたワークショップを行った。これは説得役と被説得役の2つのグループに分かれ、相互作用を繰り返すゲームであり、学生は「これからの時代に求められる健康商品」を開発し、その商品の広告チラシを持って販売をしたり、限られた資金内で仕入れをしたりと積極的にワークショップに参加していた。若干、消化不良の形であったが、様々な課題等も明らかとなり、今後の授業に大きな示唆を得ることができた。

とにかく、本科目はファシリテーターとしての私が汗だくになりながらも、楽しく行っている。その姿勢を大切に、試行錯誤しながら、新しい授業の在り方を模索していきたい。(了)



【授業参加者の感想】 教員・学生アンケートより (参考になった点等、一部を抜粋)

- ◎ 活動を通じて、学生自身が自己表現力を考える工夫がなされていたと思います。
- ◎ 「説得、納得」がキーワードにもなっているため、学生にとって就職における面接対応に役立つと思います。
- ◎ 参加を積極的にうながす設定であり、学生として授業に関与せざるを得ない(学ばざるを得ない)。学生をいい意味で学びの世界へと追い込んでいる。
- ◎ テンポのよい授業で学生もうまく授業にのっていた。
- ◎ セールスの学生の目の高さが、高い人、低い人、それぞれがいて、普段の学生の生活(バイト)などが伺えたような気がした。
- ◎ 様々な要素の入った授業であった。1コマでは、消化不良感みかもしれない。
- ◎ 外の中庭でやってみたいと思いました。

◆編集後記◆ お馴染みの「FD INVITATION」をフルカラー化してみました。リソグラフによるモノクロ写真では、せっかく公開していただいた授業の雰囲気がよく伝わらないと考えたからです。まだまだ試行錯誤中です。皆様のご感想をお寄せください。(T・M)

教育人間科学部FD委員会：村松俊夫・武藤秀夫・古家貴雄・古屋義博・皆川卓